医療法人 財団 医道会 稲荷山武田病院 季刊誌

稲荷山だより

2020
夏

topics

肛門（おしり）と痔について

稲荷山武田病院　院長代理　吉崎　慎介

肛門は毎日の排便のための出口であり、私たちの生活にかかわる大事なところですが人には見せたくないところと言うイメージもあり、その構造や病気については意外に知られていないと思われますので解説させていただきます。
肛門とは簡単に言うと出口から３～４ｃｍの肛門を締める括約筋に囲まれた管状の部分でその上部は大腸の末端部の直腸となります。
肛門の縁から　1.5 ㎝～ 2 ㎝の部に歯状線という皮膚と粘膜のつなぎ目のラインがあります。肛門疾患で一番多いのは痔核（いぼ痔）ですが、この歯状線より内側（上部）にできるのが内痔核で外側にできる外痔核と区別されます。
歯状線から上部には痛覚がなく初期の内痔核は出血があっても痛みはありません。内痔核が大きくなり進行し外に出てくる脱肛の状態になると痛みが出て、手術などの治療が必要となります。
痔核は静脈のうっ血により静脈が拡張し腫れてきたもので、排便時のいきみや繰り返す便秘で肛門に負担がかかることが原因となります。
痔ろう（あな痔）は歯状線のくぼみ（陰窩）から細菌感染が周囲に拡がり化膿して肛門周囲膿瘍となり、慢性化して皮膚との間にトンネルができた状態です。
自然には治らないので手術が必要となります。
裂肛（きれ痔）は固い便などで肛門が切れて潰瘍となった状態で慢性化すると肛門が狭くなることがあり、手術が必要となります。出血以外に排便後の 30 分くらい続く痛みが特徴的です。
大腸がんなど大腸の疾患が合併していることも考えられますので、肛門の痛みや、出血が見られたときは恥ずかしがらずに肛門診察を受けられることをお勧めします。

緩和ケア病棟に流れる癒やしのメロディ －

看護部広報委員会：植田実樹副主任

新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で、面会制限や病棟内での行事の自粛の中、患者さんに少しでも癒しの時間をと、4月初めより２Ｆ病棟片山看護師によるキーボード演奏を行なっています。スタッフステーションの前で、電子キーボードを使って「クラッシック」や「POP ミュージック」の演奏。週３回、時間は１４：３０から１５分程度ですが、患者さんからのリクエスト曲にもお答えしています。日を追う毎にステーションの前に車いすやベッドで、集まって来られるようになりました。職員は、密にならないように配慮しながら、静かに見守っています。時には想い出の歌を口ずさむ患者さんもおられます。様々なメロディが病棟中に響き、自室で療養する患者さんと働くスタッフにとって、優しく穏やかな午後のひとときとなっています。

～新型コロナウイルス感染対策～
“当院緩和ケア病棟での取り組み「つながっ tel」面会

稲荷山武田病院 緩和ケア病棟 看護師　羽生　奈緒子

日本緩和医療学会等が発表した新型コロナウイルス感染関連の調査結果によると全国の緩和ケア病棟の 98% で「面会制限」が行われていました。当院も例外ではなく面会による感染リスクを低減するためには必要な措置と判断し 4 月より「面会制限」に踏み切りました。緩和ケア病棟に勤務し 5 年目の私にとっても初めての経験で、家族に会えない患者さんのつらさを目のあたりにし、面会制限を行っていることに苦悩しながら日々のケアを行っていました。そんな中で、「直接の面会以外のコミュニケーションを支援する」取り組みとして、患者支援室が中心となり　i-pad を使用した「つながっｔｅｌ」面会を開始し、１ヶ月で約 50 件の面会を支援しました。80 代の患者さんは、見たこともない画面から現われた家族の笑顔に驚かれながらも安堵の笑みを浮かべたり、50 歳代の患者さんは、長男から初任給で買ったお花を贈られタブレットを通しての「お父さんありがとう !」に大粒の涙されたりと、患者さん・家族も大変喜んでおられます。私たちにとっても患者さんの笑顔や涙が癒しのプレゼントになっています。患者さん、家族には「人生の最終段階を共に過ごすこと」はとても重要な時間です。今後も訪れるであろう、第 2 波・第 3 波に備え、直接面会ができない状況であっても家族と繋がる時を感じ、一緒の時間が取れるように関わっていきたいと思います。